

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 1

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2024/8/13日(火)9:50~10:15
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(1歳)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び 『色水泡遊び』

<テーマ設定理由>

水遊びを基本とし、色水を通していろいろな色に気付いたり、泡にも触れることでさまざまな感触にも触れることを楽しんでもらうため

2. 活動スケジュール

- ・3色の色水を作る
- ・色水に泡を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

タライ(3)・クレープ紙(赤・青・黄)・食紅・透明カップ・チューブボトル
お尻拭き・輪ゴム・シャボン液・ボディソープ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・3つのタライにクレープ紙を用いて色水(赤・青・黄)を作り、色水遊びを行う
- ・途中からシャボン液とボディソープで泡を作り、色水と泡の両方で遊ぶ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
・最初は色水と透明のカップを用意し、色水を入れて見せることで色に気付けるようにした。「あ(か)」「あ(お)」「きいろ」など子どもたちから色の名前が聞かれた。まだ言葉が自分から出ない子からも「あ(か)」「あ(お)」「むらさき」などのオウム返しする姿が見られた。 ・色水を混ぜたことで色が変化したことに気付く様子が見られた。友だちの色水が変わった時に「緑色になったよ」と声を掛けたが、その変化に気付きにくいのか、それに注目するまでには至らなかった。「紫」と言うことがまだ難しい子には「ブドウジュースみたいだね」と声をかけると「ブドウ」と言っていた。「OOちゃんは△ジュース」「まるまる君はロジューズ」と見立てることで保育者を中心に見立て遊びを楽しんでいた。 ・チューブボトルにお尻拭きを張り食紅で色を付け、色付きの泡を作ろうとしたが、上手く作ることができなかった。その様子を見て同じようにチューブボトルをフーと拭いてみようとする姿が見られた。 ・保育者が泡を立てる様子を眺めたあと一緒にタライの中に手を入れて手を動かしたり混ぜたりして泡立ようとする姿が見られた。 ・泡を透明カップに入れてみたり、お玉ですくった泡を地面につけたりしてその泡が消えないのか広がっていくかなど変化の様子を観察していた	   

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・言葉はまだ出ていない子でも色に対して関心があることに気付いた。色と色の名前が結びついていなくても身近な食べ物などに結び付けると興味の幅が広がることが分かった。色水遊びをすることで言葉を引き出すことができた。
- ・全身を使って色水遊びをする子もいれば、カップ1つ1つに色水を入れて並べて眺めてみたり、色を混ぜてみようとしたり慎重な子もいた。
- ・泡を手にとってみたりカップに入れたりする子もいたが、ヌルヌルとした感触が苦手で、触れようとしない子もいたり違いが見られた。また泡を広げたりして様子の変化を観察する姿もあり、その発想に驚かされた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 2

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2024/08/20
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(1 歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び『指絵の具』

<テーマ設定理由>

絵の具の感触に慣れ、楽しむ。
色の混ざり方を、視覚・触覚両方から体感させたい。

2. 活動スケジュール

- ・1 グループ 6～7名で 2 グループに分かれて行う
- ・お皿に出した絵の具に直接触ってみる
- ・絵の具の着いた手で模造紙に手形を押したり、お友達の色と混ぜてみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

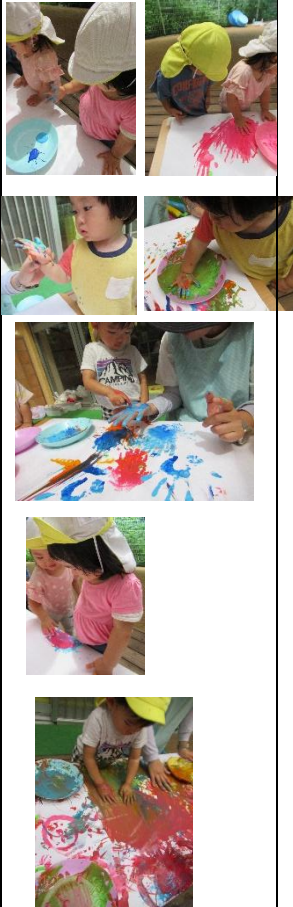
絵の具・皿・模造紙

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・机の上に模造紙を貼っておく
- ・皿に出した絵の具に触れてみる
- ・指や手についた絵の具で模造紙に色を付ける。手形スタンプをしたり、指先で絵の具をのばしてみる。
- ・皿の中や模造紙の上で絵の具を混ぜて色の変化を楽しむ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
・保育士が率先して指先や手のひらに絵の具を付け、模造紙に指スタンプを付けたり手形を付けたりして見せると、個人差はあるものの真似をして皿の上の絵の具に手を伸ばしていた。 ・なかなか絵の具に手が出せずにいる子には、保育者が自分の手についている絵の具を触らせてみたり、模造紙の上に置いた少量の絵の具を指で伸ばすように促すことで少しずつ触れるようになり、最後は自分から皿の絵の具に手を伸ばしていた。 ・まずは手についた絵の具を模造紙につけることを楽しんでたが、色々な色に触っているうちに手のひらの色が変わっていることに気付いた子が、自分の手を不思議そうにながめたり、「見て」というように保育者に見せていた。その気付きに保育者が「みどりになったね」「きれいな色になったね」など共感すると嬉しそうにしていた。 ・最初は絵の具のチューブから出したそのままの硬さだったが、途中で水を加え感触を変えることで、より絵の具をのばしやすくなり、手のひら全体を使うなど子どものアプローチも変わっていた。 ・隣の子がつけた手形の上に自分の手形を押してみたことで色が混ざる（色が変わる）ことに気付き、さらに色を混ぜてみたり、水を加えた後一緒に色を混ぜてみたりと子ども同士で関わる姿も見られた。	

5. 振り返り<振り返りによって得た保育者の気づき>

はじめは絵の具の感触を楽しみ、指についた絵の具を模造紙につけてみたり手形を付けたりするだけだったが、絵の具に水を加え硬さを変えたことで色が混ざりやすくなり、色の変化に気付いたり色を混ぜることを楽しむようになった。

自分の色を友達の色と混ぜて楽しみ、そこから子ども同士の関わりもうまれていた。

前回の取り組みから色の名前に興味が出てきたのか、今回も色の名前を口にしていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 3

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2024/9/9 (月)9:35~10:00
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(1歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び 『クレイ粘土』

<テーマ設定理由>

さまざまな感触遊びを経験していたので、今までとは違う感触に触れたり、感触の変化を経験してほしいため

3. 活動スケジュール

- ・1 グループ 3~4 人で 3 グループに分かれる
- ・クレイ粘土の変化を見たり触ったりする
- ・色を付け、色が混ざる様子に気づく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

クレイ粘土・水・重曹・ボール・食紅

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・袋から出したベトベトの状態
- ・水を入れたヌルヌルの状態
- ・重曹を入れたフワフワの状態 を見て触れる
- ・食紅(赤・黄・青)を入れて混ざる様子を観察する

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
・袋から出しベトベトの状態を見せるとすぐに手を伸ばす子もいれば、手を伸ばさない子もいる ・水を入れると少しヌルヌルした状態になる。ベトベトが触れた子はヌルヌルも嫌がらず触ることができ、伸ばしてみたり机にくっつけてみたり、指と指の間に入った粘土を取ってみようとする ・重曹を入れるとフワフワになる。伸ばすとトロ~とした感触になるため、腕を広げて伸びる感覚を楽しんでいる ・保育士の言葉を真似て「ベトベト」「フワフワ」などと言う姿が見られる。まだ発語がハッキリしていない子は「ばば」「ばばば」「あ〜」などと声を出していた ・手を下したままの子には無理強いせず「○○ちゃんもやっているね」「こんなに伸びたよ」などの声を掛けていったが、抵抗感の強い子はなかなか手が伸びなかった ・食紅を混ぜると「きいろ」「ピンク」「あお」など色の名前を言う姿があった。色が付くと抵抗感が薄れたのか手を伸ばす子が増えた。違う色の粘土を混ぜていくと粘土の色が変化していったが、色の変化への気付きはあまり見られず粘土の感触に気持ちが向いていた。友だちの前にある粘土にも興味があり、もっと粘土をくっつけたくて一緒にしてみたり「どうぞってしてみたら」と声を掛けることで渡す姿も見られた	   

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

積極的に触っている子はベトベト・ヌルヌル・フワフワと、どんな状態になっても抵抗感は見られず、手を伸ばしている。色を付け始めると今まで抵抗感を感じていた子も興味を持ち始め、触ることができた。色が淡くはっきりしていなかったこともあり、色の変化に気付くことはあまり見られなかった。それよりもフワフワの感触の方に興味が向いていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 4

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2024/9/11 (水) 10:00~10:25
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(1歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び 『泥んこ遊び』

<テーマ設定理由>

夏ならではの遊びの中で、砂・水・泥の感触を全身で感じてほしいため

4. 活動スケジュール

- ・砂・泥・水さまざまな状態の感触を感じられる場所を設定する
- ・足や手でその感触を感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

水・バケツ・スコップ・カップ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・裸足で園庭に出る
- ・シャワーで水を出し、泥になるようにする
- ・砂や泥などさまざまな状態を作ったり、水路・池・山を作る
- ・その中や周辺で水・泥・砂に全身で触れる

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
・保育者がホースを出すバケツを持ってきて水を入れてほしいというそぶりを見せる。ホースで勢い良く水を入れるとバケツの底に水が当たって水しぶきが顔や体にかかる。それを気持ちよく感じ笑顔が見られる。 ・水路や池を作り水を溜めていくと、水や泥をすくってバケツの中に入れたり、水の中に入っていく姿が見られる。 ・泥(モタモタした状態のもの)を「泥だよ」と手のひらに乗せると、その重さ・感触を確かめる姿があった。その泥を下に落とし、手のひらについた泥や砂をジッと見つめ観察していた。 ・泥が手や足につくことを嫌がる子もいる。水で洗ってみようと声を掛けると、自分で泥水の中に手を入れ、洗い落して納得していた。 ・山を作り、保育者は登ってみせると真似をして上る姿が見られた。「OOちゃん登れたね」と保育者が発すると、それに気付いた数名の子が同時に登ろうとし、足場が不安定な様子を楽しんだり、友だちと同じことをする楽しさを感じている様子であった。 ・水の中で子どもの両手を持ってジャンプをすると泥の跳ね返りを楽しんでいた。保育者と手を繋いでジャンプをしたい子もいれば、一人でジャンプをしてみようとする子もいた。 ・遊びに慣れてくると座って水の中に足を入れてみたり、這い這いで水路の中を進んでみたりと、遊びがダイナミックになっていった	

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

回数を重ねてきており、気温が高く水が心地良く感じたのか、抵抗感が少しずつなくなっている。最初だけ足を踏み入れられない子もいるが、一緒に泥の中に入っていくと、遊び始めることができるようになってきた。自分でジャンプをして泥はねを楽しめる子でも、友だちや保育者からの泥はねは嫌がることもあり、心構えが必要なのだと感じた。保育者も汚れても良いという心構えで遊んでいるため、子どももダイナミックに遊べるようになってきた。保育者の参加の仕方でも子どもの行動も変化すると感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 5

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2024/08/28
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(1 歳児)

1. 活動テーマ

＜テーマ＞

感触遊び『のり絵の具』

＜テーマ設定理由＞

フィンガーペイントを楽しんでいたため、また違った方法(感触)でフィンガーペイントを楽しんでもらいたいと考えた

2. 活動スケジュール

- ・1 グループ 6～7名で 2 グループに分かれて行う
- ・でんぷん糊と絵の具を混ぜながら指で絵を描く
- ・色の混ざる様子を楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ゆび絵の具・ヤマト糊

4. 探究活動の実践

＜活動内容＞

- ・でんぷん糊と絵の具を直接机に置き、混ぜながら広げていく
- ・広げた絵の具に指を通すと通した跡が机に浮かび、線(絵)が描ける。掌で延ばすことで絵が消え、再度絵を描くことができる。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの姿・声	写真
・「何色かな？」の問いに答えられる子がいた。 ・保育者の「やっていいよ」の声掛けで机の周りに集まり、指でちょんちょん触っていた。色がついた指を「あ、あ」と言いながら保育者に見せる。「〇〇色がついたね」と声をかけた。触らずに見ているだけの子どもいた。 ・徐々に机に乗せてある絵の具を掌全体で机を延ばしていく。時々、自分の指や掌を確認しながらどんどん色を混ぜていく。保育者はその都度「青がついたね」「黄色だね」「色が混ざったね」などその状況を言葉で伝えた。 ・保育者がアンパンマンを描くと「アンパンマン」と声を出し、その後、自分でも絵を描こうとしていた。保育者が描いた絵を消すことを楽しむ子どもいた。 ・触れずに見ていた2名は、保育者に手の甲や腕に“ちょん”と絵の具をつけられると「いや」と言ったり、困った表情になっていた。1名は保育者がちょんと付けるとニヤッと笑い、仕返しするかのように保育者に向かう。ボディペイントのようになっており、そのやり取りを楽しむことで触ることができていた。もう1名も手に絵の具が付くと初めは「いやいやいや」などと言っていたが、「絵の具ついちゃったね、後でキレイにするからね」など声をかけ、促すことで少し遊べていた。 ・今回は色への興味よりももったりとした絵の具の感触や机に描かれるものの変化を楽しんでいる様子だった。	     

5. 振り返り＜振り返りによって得た保育者の気づき＞

絵の具がもったりしていたため、フィンガーペイントの時よりも色の混ざり方がグラデーションっぽくなっており、それに気づいている様子だった。

初めての絵の具(感触)に抵抗感を示すが、触ってみたら大丈夫という姿が見られた。

お絵描きの要素があったのがみんなの興味をより一層深めていた。

絵の具が少し硬くて、子ども筆圧だとしっかりと線が出なかった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書 6

園名	キッズガーデンかわせみ
日時	2024/08/29
クラス名(年齢)	たんぽぽ組(1 歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

感触遊び『ボディーペイント』

<テーマ設定理由>

フィンガーペイントをたくさん行い、楽しんだり、苦手だが触れてみようとする姿があったため、よりダイナミックに絵の具で遊んで欲しいと考えたから

2. 活動スケジュール

- ・洋服は着用したまま行う
- ・色の混ざりに気づいたり、楽しめるように白い洋服で行う
- ・紙などは用意せず、腕や体(服)に塗ってみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ゆび絵の具、パレット(お皿)

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・絵の具を自由に触り、塗る。顔や腕などの地肌、洋服、テラスや窓などなるべく制限せずに自由に塗れるようにする
- ・他児や保育者と互いに塗り合うよう促すが、嫌がる相手には執拗にやらないように見守る
- ・最後はシャワーで汚れを落とす様子も見てみる

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿・声	写真
・初めは腕やお腹に塗っていた。ふいに顔に色が付き、保育者が「いいね」など声をかけたり、別の場所にちゃんと絵の具を付けると真似る子がいた。 ・保育者に触った際に保育者の服に絵の具が付き、戸惑っていたが「先生にもやっていいんだよ」と伝えるといたずらな表情をしてつけようとしていた。保育者だけでなく、お友だちの背中や帽子に触れると自分の手についている絵の具が付くことを楽しむ姿があった。 ・同様に窓に触れて絵の具を付け、「いいんだよ。窓にも描いちゃいな」と声をかけられ、やり始める。他の子たちもどんどん窓に集まり、隣のクラスの窓にも様々な色を付けていた。隣の子と場所を取り合って窓に描こうとする姿もあった。 ・子どもたちが想像以上に短時間でダイナミックに描き、描く場所がなくなったため、急遽模造紙を2枚出し、もっと描けるようにした。床に貼ったので足裏に絵の具を付けて足型をやってみせた。自分の足裏にも塗って自分で足型を付けていた。足の甲に絵の具を付けてしまい、足型が取れない子もいた。保育者と手を繋いで模造紙の上でジャンプしたり、遊びの後半はよりダイナミックに遊んでいた。 ・苦手な子は途中で洗いたがっていたが、遊びが展開されるとそちらの方に興味に移り、最後まで洗わずとも遊んでいた。 ・トライを出すすと苦手な子はすぐに洗いに来ていたが、最後まで遊んでいる子もいた。	

5. 振り返り<振り返りによって得た保育者の気づき>

場所の制約をしなかったことで自由に描く楽しさを味わえたのがよかった。回数を重ねることで苦手な子も全く嫌がるのではなく許容範囲が広がってきた。互いに塗り合っていていいことを伝えることでお友だちと一緒にやる楽しさに気が付いていた。